第1特集

達成感爆発！

手作りガーデンハウス

Self-Building a Garden House

庭の隅に作るささやかな極私的趣味空間。
プロの仕上がりよりも、わがままな自分センスが優先し、
苦労はするけれど、その分、完成時の達成感は格別！
そんな至福のDIYスタイルを望むなら、全国DIYer諸君！
小さなガーデンハウスを作ってみないか。
もしかしたら、その経験はやがてエスカレートし、
いつかは本当のセルフビルドに挑戦したくなる…はず!?

- 手作りガーデンハウス実例集
- 実践施工レポート 3回の週末DIYで作る「多目的ガーデンハウス」
- 超マジにチェック！ 10㎡以下のキットハウスカタログ

2008年10月1日発行（偶数月1回1日発行）第5巻4号通巻66号 第3種郵便物認可

創刊12周年突入！ 増ページ特大号！ ミニハウスキット2棟 モニター大募集！

ドゥーパ！

Do It Yourself！
週末DIY・手作りライフマガジン

10 October 2008 No.066

80ページ 別冊付録 電ドリ 完全マスター！

モニター大募集！
キット2棟
ログハウス
2×4ハウス

待ってました！ DIYシーズン到来！

［総力特集］

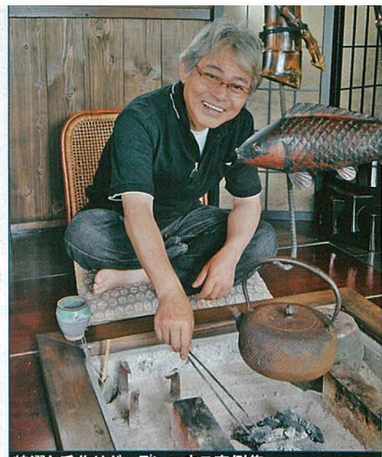
ガーデンハウスを作ろう！

基礎から屋根&外壁仕上げまで
マイ工房、隠れ家、
趣味部屋の作り方

最新キットハウスカタログ25
DIY大賞受賞作を大公開！
ガーデン収納ボックス&物置の作り方
［特別企画］憧れのログハウス暮らし

はじめてのチャレンジ！
編集部実践 片流れ屋根のガーデンハウス

構想4年、製作6年。完全セルフビルドで建てられた「蓬莱庵」



特選! 手作りガーデンハウス実例集

Data	
製作者	正守道夫さん 61歳・化粧品会社代表
家族構成	夫婦、子供3人
DIY歴	20年
製作期間	延べ10年
費用	約10万円

静岡県藤枝市●正守邸

廃材利用の古民家風囲炉裏小屋「蓬莱庵」

リサイクル材を使用したセルフビルドDIYは、父の居場所かつ家族の語らいの場を作り出した

写真◎谷瀬弘／取材・文◎本誌編集部／イラスト◎山本勇

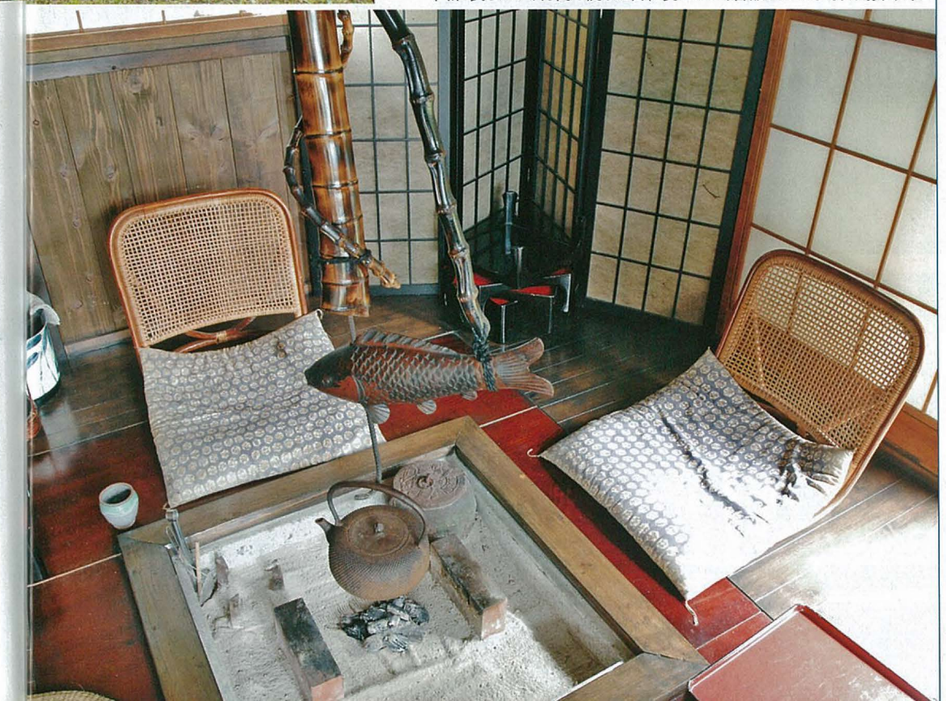
気まぐれものの小屋作りは試行錯誤の連続

以前から「山にログハウスでも作って家族でのんびりしたい」と考えていた正守さん。そんな折りに兄の持っていた山小屋の借地契約が切れ、取り壊すことになったという。話を聞きつけた正守さんは「そのまま壊すなんてもったいない!」と自ら築20年の山小屋を解体。その廃材を自宅に運びこんだのが、この囲炉裏小屋「蓬莱庵」を作ることになったきっかけだ。

まず廃材についている不要なクギやゴミを取る再生加工が小屋作りの第一歩。小屋の大きさを決めるときも、使える廃材の梁の長さにあわせて設計したそうだ。使った道具も家庭用日曜大工キットのセットでまかなったというエピソードから、完成までのコツコツとした努力がうかがえる。

「自分は気まぐれものですから」と自身を分析する正守さん。いざ囲炉裏小屋の設計図を書いてみたものの、製作途中に「換気がよくなる越屋根をつけたい」とか「やっぱりドアは引き戸がいいなぁ」とアイデアが浮かぶと図面を無視して着工ということがよくあったそうだ。材の長さが足りなくなって、手持ちの材でつぎはぎすることもしばしば。「予定変更は大変、でも思いついたことを形にする瞬間がたまらない」と楽しそうに笑う。

実際、囲炉裏小屋をのぞいてみると、既製の障子を半分にカットして、うまい具合に窓部分にサイズをあわせたり、玄関横の靴箱は使わなくなったボックスを流用したりといたるところにアイデアがあふれている。

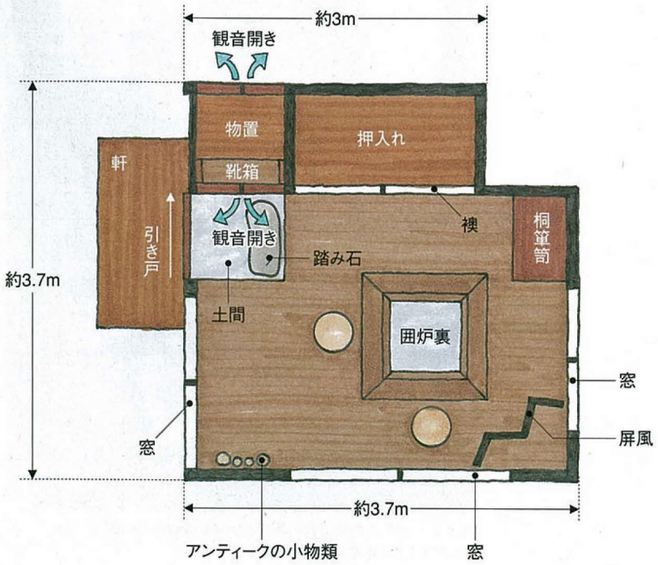


「蓬莱庵」内部。
囲炉裏といい、竹筒を使った自在鈎といい、昔話にでてきそうな雰囲気だ

01

02

01 囲炉裏を製作するにあたり、換気をよくするためにつけられた越屋根。内部には小さな換気扇がついている。
02 山小屋を解体し、再利用された梁は見事な存在感。ホゾもノミとカナヅチでコツコツ加工したという



にする気持ちがこの囲炉裏を形作ったといっても過言ではない。

先日は上京していた子供たちが突然帰ってきて、「蓬莱庵」で正守さんの誕生日を祝ってくれたそうだ。火を囲んで、向かい合い語り合い、同じ時を過ごす…正守さんにとって、楽しみで作った囲炉裏小屋は父の居場所になり、同時に家族との絆も深める大切な場所になったようだ。

大河ドラマのセットのように完成された雰囲気の室内。大好きな鮎釣りで釣った獲物を、この囲炉裏で串焼きにして一杯やるのが最高の楽しみ

再生された廃材が作り出す「新しいのに懐かしい」雰囲気

「蓬莱庵」の最大の特長は、ほとんどの部分が廃材を用いて作られていることだ。なんと費用の目安は1カ月5000円というから驚き。自分で解体した山小屋の材はもちろん、木材加工業者から規格外のヒノキ材をもらったり、昭和初期の商家の解体現場に声をかけて材料を集めながら作ったそうだ。

解体現場の曲がった廃材は正守さんにとっては宝の山同然だ。規格外で節があってもヒノキ材は合板やトタンなどより上等で見た目も立派。もらってきた廃材は古民家をイメージした小屋作りにはぴったりだったようで、使いこまれた山小屋の梁や商家で使われていたという飾り格子は重厚な存在感で部屋に溶けこんでいる。囲炉裏まわりに張りつけた赤味を帯びたケヤキの床板も、時間の経過を感じさせる味わい深さだ。新しく作ったものなのに、まるで以前からここに建っていたような錯覚に襲われてしまう。

ひと昔前にタイムスリップしてしまったかのような小屋の雰囲気作りにもうひと役買っているのが、部屋に鎮座するアンティークの小物類。昭和初期の襖、年季の入った桐箪笥、廃業した旅館の布団にお盆、一部は正守さんの義父さんがいろいろなところから持ってくるという。新しいものをすぐに買ってしまうのではなく、物を大切

05

03

06

04

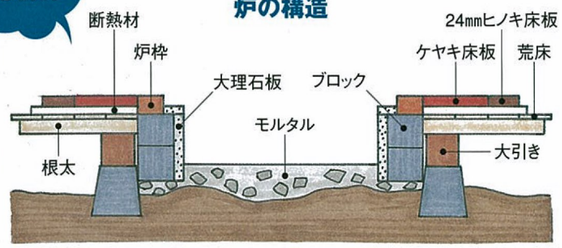
03 既存の障子を半分にカット、敷居部分を加工しはめこんである。物を大切にする正守さんらしいアイデアだ。 04 商家の解体現場からもらってきた飾り格子。幾何学的な組み合わせに当時の職人の技をみる。 05 こんな懐かしい扇風機も廃材を利用したもの。もちろんタダ。 06 義父さんが持ってくるという年季の入った小道具たち。左端の傘はなんと大正時代に作られたアンティーク。壁に塗られた漆喰との相性もいい

昭和初期の商家の解体現場からもらってきた襖の色味は、時代を重ねてきたことを感じさせる

持ってきた時は手垢で真っ黒になっていたという桐箪笥。磨いて塗装しなおされ、見事に再生された

Point

炉の構造



囲炉裏の側面は大理石を張りつけ、上品な仕上がりに

炉の側面の基礎部分はブロックを2段積み重ねて、モルタルで固定。その上から見栄えがいい大理石のテーブル板をカットしたものを張りつけた。囲炉裏の底部分は、庭にあった大石やブロックのかけら、大理石板の余りをカットしたものをいれてかさ上げし、モルタルでならし、底上げした。